

## 審査結果の要旨

報告番号	乙 第 294 / 号	氏名	堀之内 崇士
審査担当者	主査	山下 裕史朗	(印)
	副主査	坂邊 浩	(印)
	副主査	桑野 剛一	(印)
主論文題目： Prediction of histological chorioamnionitis and neonatal and infantile outcomes using procalcitonin in the umbilical cord blood and amniotic fluid at birth. (出生時の臍帯静脈血および羊水プロカルシトニンを用いた絨毛膜羊膜炎の重症度および胎児炎症反応の予測)			

### 審査結果の要旨 (意見)

切迫早産ないし前期破水で妊娠 22 週~36 週の間には早産に至った 36 例を対象としており、臍帯静脈血プロカルシトニン(PCT)値が、絨毛膜羊膜炎(CAM)群と比べて、non-CAM 群よりも高値であった。羊水 PCT 値は両群間で差を認めず、臍帯静脈血 PCT と臍帯静脈血 IL-6 の間に強い相関関係を認めた。臍帯静脈血 PCT 値 > 170pg/ml 以上の 10 例、および IL-6 値 11.0pg/ml 以上の 6 例のうち、それぞれ 6 例、および 5 例が新生児および乳児期の予後が不良であった。本研究は、臍帯静脈血 PCT 値が、CAM や FIRS の重症度予測や子宮内炎症状態に基づく新生児や乳児の予後予測の有用な指標であることを明らかにした論文であり、臨床的にも価値が高く、学位論文としてふさわしい。

### 論文要旨

目的は絨毛膜羊膜炎(chorioamnionitis, CAM)および胎児炎症反応症候群(fetal inflammatory response syndrome, FIRS)の重症度を評価する上で、臍帯静脈血および羊水 procalcitonin(PCT)の有用性を明らかにすることである。

対象は、切迫早産ないし前期破水で妊娠 22 週から 36 週の間には早産に至った 36 例である。CAM は Blanc 分類 II 度以上、FIRS は臍帯静脈血 interleukin-6 (IL-6) 値 > 11pg / mL と定義した。対象を組織学的絨毛膜羊膜炎の Blanc 分類を用いて CAM 群と non-CAM 群の 2 群に分けた。臍帯静脈血 PCT 値および羊水 PCT 値を 2 群間で比較した。ついで、臍帯静脈血 PCT 値と臍帯静脈血 IL-6 値との関係、臍帯静脈血 PCT 値と分娩週数との関係を解析した。有意水準は  $P < 0.05$  とした。

臍帯静脈血 PCT 値は、CAM 群(240.2 pg/mL [中央値], 125.4-350.3 pg/mL [第 1 四分位値-第 3 四分位値])では non-CAM 群(105.1, 50.2-137.5 pg/mL)より高値であった( $P = 0.0006$ )。羊水 PCT 値は、CAM 群と non-CAM 群の間で差を認めなかった。臍帯静脈血 PCT 値と臍帯静脈血 IL-6 値の間に強い相関関係(相関係数: 0.793)を認めた。

臍帯静脈血 PCT 値 > 170 pg/mL の 10 例および IL-6 値 > 11.0 pg/mL の 6 例のうち、それぞれ 6 例 (60.0%) および 5 例 (83.3%) が新生児および乳児の転帰が予後不良であった。新生児および乳児の転帰が予後不良の 7 例のうち、6 例 (85.7%) および 5 例 (71.4%) の臍帯静脈血 PCT 値  $\geq 170.0$  pg/mL、IL-6 値  $\geq 11.0$  pg/mL であった。

臍帯静脈 PCT 値は、CAM や FIRS の重症度の予測や子宮内炎症状態に基づく新生児や乳児の予後予測のための有用な指標であることが示唆された。